



2006年の大阪はもちろんだが、私にとってはこの2005年の千葉大会も貴重な思い出だ。

90年にわたって吹き続ける赤き疾風。その中で、春高にとっても数十年に一度の大勝負の年だったと思う。

デジタルデータを集積し始めて3年。当事のコラムには活字しかなかった実況だが、今回は時間刻みで春高の活躍をプレイバックしたい。

正直言って、私は春高のインターハイで100mを見たことがない。  
94年に陸名英二が10秒67の春高記録で関東3位になったが、本番は見えていない。  
その陸名も腰痛に悩まされたように、スプリンターは故障がつきものだ。  
後藤には入賞はもちろんしてほしいが、「肉離れで棄権・・・」というシーンだけは見たくない。  
そうこうするうちに、100mの予選が始まった。  
さすがに北関東覇者の石塚選手や南関東の熊本選手はさすがに速い。  
後藤のスタートを緊張しながらバックスタンドで見る。  
大塚さんは、動きを解析するためバックストレートに。



我々の心配をよそに、後藤は順調な滑り出し。  
あっという間に、後続を引き離れた。・・・・・・強いな・・改めて感じた。







そうこうしているうちに、奥岡の  
400mHが始まった。

すでに400mRの予選を走っており、踏み切り脚にはテーピングが……

いつものスピードには乗れない様子だった。

ここは無理せず、400mRと110mHに焦点を合わせる結果となった。



後藤の準決勝の時間がやってきた。

これを通過すれば夢の100mファイナルだ。

隣には今後、常に競い合うライバルの江里口選手もいる。翌年の決勝で激戦を演じた福岡の荒尾選手は一組で3着と敗れた。今日は向かい風3m。体重の軽い後藤にはやや不利か・・・



そんな心配をよそに、後藤は準決勝トップ通過。 - 2mの風の中、10秒69だ。

調子は良いようだ。江里口選手も2位で通過。

我々は大歓声を上げた！堂々のファイナル進出だ！！





それから約、2時間。

いよいよインターハイ男子100mの決勝だ。

赤シャツがインターハイ100m決勝のシーンにいる。

それだけで感動的だ。夢を見ているような気持ちになった。



2レーンには今年の日本ジュニア制覇の木村選手（添上）、3レーンに後藤。

4レーンは熊本選手（早実）、5レーンは今シーズン絶好調の石塚選手（土浦三）。

・・・この中から優勝者が生まれるだろうと予測された。

8人の中、2年生は後藤、熊本、江里口選手の3人。今後1年以上、この顔ぶれがインターハイ、国体で「最速高校生」をかけてぶつかることになる。

一回のフライング。

二度目でスタート。後藤は30mまでトップに着いていく。

そこから別格の加速で石塚選手が一人抜け出し、何とか木村選手が追いすがすが付いていけない。後藤は3番目か！？・・・



最後で6レーンの伊丸岡選手に0・01秒かわされたが、結果は向かい風2・1mの中、堂々の4位であった。二年前の全中チャンピオンが、順当に成長していることを知らしめた。





オーロラビジョンでのプレイバック。



表彰式。ついに赤シャツが4位入賞を果たした。春高の100mは過去に6位が最高位。





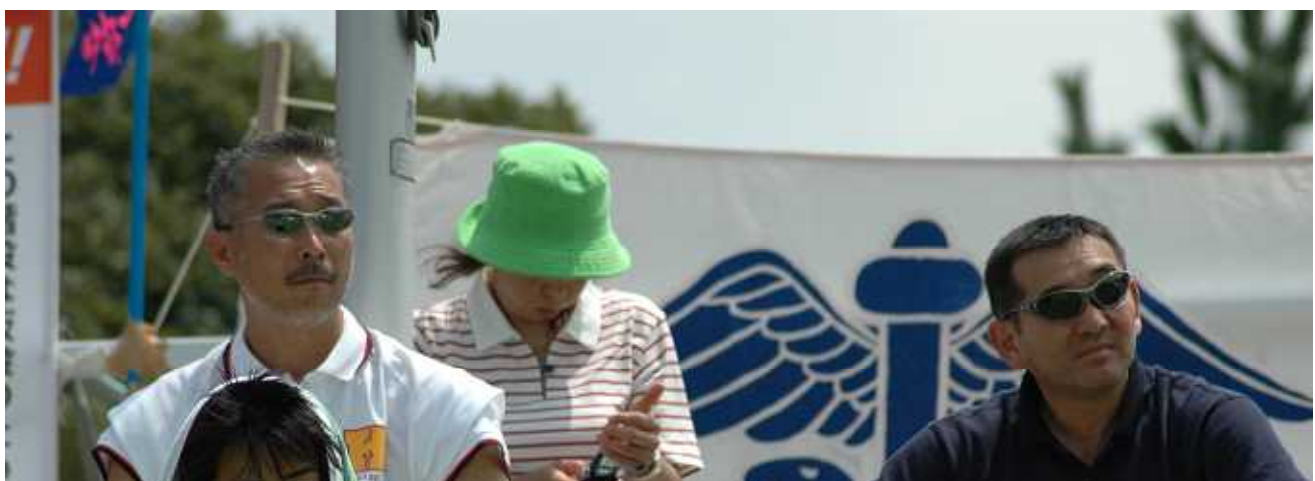
そしてもう一つの山場。

男子400mRの準決勝が迫っていた。

春高が過去に幾度も辛酸をなめたこの種目。何としても入賞を果たしたい悲願の種目でもある。そしてそのチャンスは幾度もめぐってくるほど安易ではない。今年はそのチャンスを絶対に逃したくない。



応援指導部も駆けつけてくれた。大塚さんも、村井さんも口数が少なくなる。





準決勝3組の春高が目指すのは、2着か41秒5以内だ。  
カクテルライトの中、いよいよ男子3組目がスタート。伊藤は好調！



伊藤が奥岡につなぐ。長年息のあったメンバー同士だ。



奥岡が優勝候補の望洋を追う！左脚の不安を払拭する切れ味だ。



リレー巧者の高橋大へ。  
魂は渡る。



いける！

現在トップグループか。

あとは予選で危うかった3 - 4走の場面さえ凌げば、後藤が抜かれることは無い！





アンカーへのパスも大丈夫。現在3番手か。  
しかしこのあと、予想外の出来事が・・・



2位グループを抜け出す後藤。  
行ける！  
しかしさらに後ろから超ロングストライドの選手が・・・  
あっという間にセカンドグループを捕まえた。

大阪高校が準決勝まで温存しておいた400m高校記録保持者の金丸選手だった。



2位確定と思われた後藤を、なんと金丸選手が抜き去った！  
100m決勝4位、10秒5で走れる後藤を・・・！？



春高3位！・・・あとはタイム次第・・・

金丸選手の加速、恐るべし・・・高校生の域ではない。



・・・ああ、リレーはやはり厳しいのか・・・  
じっとオーロラビジョンを待つ・・・

「出た！」

順位	組別	チーム名	タイム	備考
	3組 3-2+2	GR 大阪・大阪	40.18	
1	東海望	千葉	41.22	Q
2	大阪	大阪	41.34	Q
3	春日部	埼玉	41.41	
4	名古屋	愛知	41.56	
5	成田	千葉	41.81	
6	日本文	新潟	42.20	
7	小倉工	福岡	42.40	
8	西南	福岡	42.84	

4 1 秒 4 1 の春高新記録更新で、プラスに入った！！

大塚さんはとても喜んだ。リレーで結果を残す重要性を何より提唱してきたからだ。  
嵯峨根さんも28年前の悪夢が昇華された。  
みな感涙ものであった。

4 0 0 m R 春高史上初の決勝進出だ！！

その2へ続く・・・